

**Press Release****危機に直面するアフリカに背を向け、G8 支援公約達成も危機**

2008年7月6日

2008年7月6日 — 原油・食料価格の高騰、気候変動、新たな危機がアフリカの人々の暮らしを直撃する中、開催される洞爺湖サミット。期待されるのは、今までのコミットメントを越える支援である。しかし、洞爺湖で発表される予定のG8コミュニケのドラフトには、G8が2005年にグレンイーグルズで約束した2010年までに援助を500億ドル増額するという点についての言及がなされない可能性が高まっている。

日本政府は、2008年をアフリカ支援の節目の年と位置づけ、5月30日に閉幕した第4回アフリカ開発会議(TICAD IV)では、今後5年間で対アフリカODAを倍増することなどを公約し、その成果を洞爺湖サミットへつなげることを宣言した。その宣言を実行し、アフリカをはじめとした途上国に暮らす貧しい人びとに対する約束を守るために、日本政府は、G8諸国が援助を増額することに向けて全力を傾注しなければならない。そのリーダーシップが発揮されないままでは、洞爺湖サミットは過去の約束に背を向ける初めてのサミットとして、歴史的汚名を背負うことになりかねない。

「TICAD IV終了直後から、アフリカ支援に関しては『やりきった』ような空気が日本政府から感じられる。TICAD IVにおけるアフリカ支援倍増宣言が、日本国内では前進であったとしても、国際的な約束を塗り替え、ハードルを下げるものであってはならない」TICA IV・NGOネットワーク運営委員／(特活)ハンガー・フリー・ワールド 富田杏子

2005年グレンイーグルズでは、ミレニアム開発目標(MDGs)達成に向けたG8自らの責任として、500億ドルの援助公約、アフリカ支援の倍増を約束した。仮にこの約束を守ったとしても、MDGs達成には不十分だが、それでも、G8史上最大の貧困対策の約束であり、画期的であったことは間違いない。

「最低限の『守ることのできる約束』として同意をしたはずのグレンイーグルズ公約。気候変動や食料価格の高騰など、貧困層にのしかかる負担が増しているのだから、グレンイーグルズ公約以上の話がされなければならないときに、この約束自体が忘れられようとするなら看過できない。過去6カ月にG8諸国が銀行救済に投じたお金は1兆ドルに上る事を見ても、問題が財源の有無よりも政治的意志の有無にあることは明らかだ。」2008年G8サミットNGOフォーラム 貧困開発ユニット／(特活)オックスファム・ジャパン 山田太雲

「日本では、第二次大戦中原爆投下で多くの命が奪われた。その惨劇を目に浮かべてほしい。今アフリカではそれ以上の規模で、貧困、気候変動、原油・食料価格の高騰が、貧しい人びとの命を奪おうとしている。原爆が人の手でつくられた悪であったように、食料危機、気候危機もまた人間がつくり出したものだ。それを解決するために、世界のリーダーたちは一丸となって取り組まなければならない。」PELUM Association／ジョセフ・スーナ、ウガンダ

進捗が遅れている保健医療分野における公約の進捗をモニタリングするアカウンタビリティ・メカニズムを洞爺湖サミットで採択するために、日本政府は舵取りをしてきた。このような努力が活かされるためにも、具体的な資金コミットメントと、その実現に向け、日本の更なるリーダーシップが発揮されるべきだ。

**■本件に関するお問い合わせは、こちらまでお願いいたします:**TICAD IV・NGO ネットワーク(TNnet) <http://www.ticad-csf.net/TNnet>(担当) 富田杏子 090-5217-6448 Eメール: [toko@hungerfree.net](mailto:toko@hungerfree.net)

(事務局)住所:169-0051 新宿区西早稲田 1-21-1 早大西早稲田ビル7F/電話:03-5286-8261

2008年G8サミットNGOフォーラム <http://www.g8ngoforum.org>(担当) 山田太雲 080-2612-3842(G8用の携帯番号) Eメール: [takumo@oxfam.jp](mailto:takumo@oxfam.jp)

(事務局)住所:169-0051 新宿区西早稲田 2-3-18 アパコ 5F/電話:03-5292-2911